

COVID-19で求められる国立医療の検証 -医師・管理者・行政-

座長 大平 徹郎[†]第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日 於 WEB開催)

IRYO Vol.75 No. 6 (512-513) 2021

要旨

シンポジウム1では、COVID-19で求められる国立医療を検証する目的で、5名の演者にご発表いただいた。本シンポジウムを通して、ナショナルセンターの感染症専門医や国立病院機構NHOがこれまで果たした役割、院内クラスターを克服した処方箋、臨床現場からは垣間見ることのできない地域保健所の活動が明らかになった。

キーワード COVID-19, ナショナルセンター, 国立病院機構, 院内クラスター, 保健所

2020年1月のCOVID-19国内第1例確認、2月のクルーズ船集団感染以降、医療現場はいうまでもなく、国民生活の隅々までが激動の波にのみ込まれた。同年10月16日、17日に新潟市・朱鷺メッセで開催されるはずであった第74回国立病院総合医学会も例外ではない。

実開催からオンライン方式への完全移行を余儀なくされた時、残り期間は半年を切っていた。学会史上初のタスクに挑む中、中島孝会長を中心に下村登規夫、新木一弘、大平徹郎の3副会長が新たな意気込みで準備に着手したのが、緊急企画「COVID-19を越えその後(さき)へ」である。「越」「後」の2文字には、新潟開催を果たせなかった主催者サイドの思いを込めた。

2つの特別講演、3つのシンポジウムから構成されたこの緊急企画は、オンライン学会当日、開会式、オープニングリマークスに続いてライブ配信された。企画の主眼は、新型コロナウイルス・パンデミックの渦中にある国立医療を検証し、到達すべきゴ

ルを見いだすことである。視聴者が知りたいことは何かを絞って、国立医療に携わる人々の高い使命感に応えることを最優先した。

筆者が座長を務めたシンポジウム1「COVID-19で求められる国立医療の検証 -医師・管理者・行政の立場から-」では、5名の方々にご発表いただいている。

シンポジウム1

「COVID-19で求められる国立医療の検証」 -医師・管理者・行政の立場から-

座長 NHO西新潟中央病院長 大平徹郎

- 1) 感染症専門医・ナショナルセンターの立場から
国立国際医療研究センター病院国際感染症センター 国際感染症対策室医長/国際診療部副部長 (兼任) 忽那賢志
- 2) クルーズ船対応等NHOの立場から

国立病院機構西新潟中央病院 †医師

著者連絡先：大平徹郎 国立病院機構西新潟中央病院 院長 〒950-2085 新潟県新潟市西区真砂1-14-1

e-mail: ohdaira.tetsuro.nf@mail.hosp.go.jp

(2021年3月19日受付、2021年8月6日受理)

Verification of National Medical Service Required for COVID-19 from the Perspectives of Doctor, Director, Public Health Center

Ohdaira Tetsuro, NHO Nishinigiata Chuo Hospital

(Received Mar. 19, 2021, Accepted Aug. 6, 2021)

Key Words: COVID-19, national center, national hospital organization, in-hospital cluster, public health center

NHO本部審議役 岡田千春

3) COVID-19によるクラスター発生を経験して

NHO大分医療センター院長 穴井秀明

4) 北海道がんセンターにおける新型コロナウイルス院内クラスター発生のご経験と今後の対応

NHO北海道がんセンター院長 加藤秀則

5) 新潟市におけるCOVID-19第1波を振り返って

: 地域の保健所・行政の立場から

新潟市保健所長 高橋善樹

1) 感染症専門医・ナショナルセンターの立場から

「新型コロナウイルス感染症COVID-19診療の手引き」の検討委員会メンバーでもある忽那賢志氏から、流行状況、新たな知見、治療薬などについてのご解説があった。氏は本感染症の情報発信にも積極的に取り組まれ、人気漫画「3月のライオン」の作者・羽海野チカさんとの交流から生まれた手洗い啓発イラストも有名だ。ピンク色を背景に「せっけんせんでよ〜く てを あらおう!!」と呼びかける可憐な三姉妹を、ご存じの方も多いであろう。

2) クルーズ船対応等NHOの立場から

NHOは国や自治体からの要請に基づき、中国からの帰国者のための宿泊施設、クルーズ船内への医療スタッフの派遣、感染患者の機構内病院への受け入れにいち早く対応した。未知のウイルスによる未曾有の事態をNHO本部はどう捉え、どのような役割を担ったのか、指揮を執った岡田千春審議役が総括した。

3) COVID-19によるクラスター発生を経験して

4) 北海道がんセンターにおける新型コロナウイルス院内クラスター発生のご経験と今後の対応

いかに万全の対策を講じていても、感染者の紛れ

込みはどの医療機関でもおこりうる。第一波で想定外の院内クラスターを克服した病院管理者の立場から、穴井秀明NHO大分病院長、加藤秀則NHO北海道がんセンター院長のご経験が示された。

5) 新潟市におけるCOVID-19第1波を振り返って: 地域の保健所・行政の立場から

新潟市保健所のCOVID-19への対応が、高橋善樹所長からご紹介された。その詳細は文献1をご参照いただきたい。

8つの行政区から構成される新潟市（人口約78万人）は、日本海側唯一の政令指定都市で1保健所体制である。全国に先駆けて新潟市保健所で実施したドライブスルー方式のPCR検体採取、第1波における入退院調整と協力医療機関間の連携構築、濃厚接触者に対する積極的疫学調査などについて言及があった。

本シンポジウムを通して、ナショナルセンターの感染症専門医やNHOがこれまで果たした役割、院内クラスターを克服した処方箋、臨床現場からは見ることのできない地域保健所の活動を知ることができた。

〈本論文は第74回国立病院総合医学会シンポジウム「COVID-19で求められる国立医療の検証 ~医師・管理者・行政~」で発表された内容を座長としてまとめたものである。〉

著者の利益相反：本論文発表内容に関連して申告なし。

【文献】

- 1) 高橋善樹.新潟市のCOVID-19第1波対応を振り返って -新潟市保健所の対応を中心に-. 新潟医師会報 2020 ; 848 : 13-9.